

10:00~10:30 Middleton先生 1年22名

アシスタントの先生と2名で授業。私たち2名の参観者のためにその日の授業計画書をプリントアウトしてくれていた。9:00から11:00までは Reading Center, Writing Center, Independent Center (個別の課題の学習), Listening Center (カセットで本のモデルの読み聞かせを聞いていた), Computer Center (毎日ローテーションで違うコンピューターの学習をする) の5つのコーナーにグループごとに分かれ、学習をしていた。30分で次へと移っていく。子どもたちは自分の取り組むべき課題をよく知っていてまじめに取り組んでいた。

アメリカの学校では驚くことに休憩時間がない。トイレも各自が担任に申し出て許可をもらっていている。さすがに低学年の教室には、トイレが教室内についていたのだが、そうでなければ許可のカードをもらって用を足しに行くとか。日本では休み時間にトイレをすますようにと指導をするが、個人の必要に合わせるというアメリカの方が合理的なのか疑問が残る。また、1年生は、午前中は同じスケジュールで学習し、午後は音楽、図工、体育などの学習をしているそうである。

10:30~11:15 Bartlett先生 3年

英語の文法についての学習。主語、述語、目的語の文型。代名詞の使い方などについてオレンジ色の色画用紙で作った手製の手袋を子どもに配り、イエス、ノーの質問をしながら授業を進めていた。アシスタントの先生は、横の机で課題の採点をしており、すぐ個別の表に記録していた。個人がどこまで進んでいるかはこうして即座に記録していくようだ。この教室の横の廊下で一人、一対一で学習をしていた。州のテストが厳しくなり、3年の末の段階で基準の得点がとれない場合は、落第することになっているため、子どもたちも先生方も必死なのであろう。

ここの教室に途中で担当の先生に付き添われてハンディキャップを持つ児童が学習にきたが、何も特別に言葉かけはしないようだ。他の子達も自然に学習を続けていた。授業中は静かにということが徹底しているのは素晴らしいと思ったが、なにかその子を無視しているようにも感じたのだが。

11:15~12:00 Hall先生 6年 社会

米国の社会科の授業ということで興味を持って見学した。まず日本から来た私たちを歓迎する意図だと思

うが、浦島太郎の民話を取り上げていた。A4版7ページのコピーを20分ほどかけて読み、その課題に答え、できた人から席を離れ、円形に座りこの話についての質疑応答。日本地図を示し、私たちがどの地域の出身かという問いに答えた。その後先週ロシアについて学習したということで、質疑応答。そのロシアについての学習も読み物資料を読んでそれについての知識整理をしているという感じであった。子どもたちは、学習のマニュアルをよく理解し、まじめに取り組んでいたが、先の課題になかなか答えられずに円座する仲間に加わりたくそうな子どもが3人ほどいて担任に早くするように促されていた。社会科の授業も、州のカリキュラムにそって担任が資料を選んでいるためか、比較的自由に日本についての学習を取り入れてくれていた。ただロシア・日本とも読み物的教材を扱っており、社会科のなかでも、リーディングの力をかなり重視しているように感じたのだが。

12:00~12:40

学校のカフェテリアで昼食。子どもたちは、学年ごとに3グループに分かれ、時間差をつけて昼食をとっている。好きなものを選んで、その分のお金をレジで支払っている。昼食後、アイスクリームなどのデザートをとるのも自由であった。あと、豆の水煮した料理が幾種類か有るのはアメリカによくあると知っていたのだが、サラダに入っているミニにんじん、ブロッコリー、カリフラワーとも生であったのには、驚いた。早く昼食をすませた子たちは、横のコートで少しボール遊びのようなことをして遊んでいたが、基本的に休憩時間はないので、時間がくると次の授業のある教室に移動していった。

12:40~13:30 Fonts先生 6年 理科

分厚いテキストを使って学習。テキストといっても学校に用意されているようで、担任によって使用するか、しないか自由であるようだ。X線、ラジオ波、 α 波、 β 波など光の学習をしていた。光の合成には、カラーセロハン紙を重ねて色の合成をしてみる実験を個人がやっていた。教室には、全面に黒板があり、児童机は右半分まで左半分までが向かい合うよう、また各机は離れて配置され、黒板を見るのも首を回してみると行った感じであった。挙手も静かに手を挙げ、静かに答え、大事な部分はそろって復唱するのだが、担任の先生の授業スタイルがあって、見事にそれが徹

底しておりそれまでに持っていたアメリカの授業に関してイメージが変化してしまった。OHPにラジオメーターという器具を用い、光を当てて羽を回す実験をすることで光の周波数、エネルギーなど学習していたと思うが、この時間にテキスト20ページ分ぐらい進んでいた。

1:30~2:00 図画工作の授業 3年21人

図工室で行われていた。短冊に切った各色の色画用紙を先生が準備しており、子どもたちは自由に選び、交互に編み込んでいきカラフルな格子模様を作り最後に卵形に切っていた。近づいているイースターにちなんで自分の考えた卵を作ると行った学習をしていた。先生は、横の準備室で画用紙を切ってきており、子どもは教室に用意されたはさみで切っている。他の教室でも色鉛筆、はさみ、のりなどの文房具は、先生が用意しているものを使っていた。自分の机をもたないので仕方ない面もあるのかとは思ったが、はやく作品ができあがった人には、別に画用紙をわたし、自由に絵をかいていた。

図工室の棚には、粘土作品など多学年の作品が並べられていた。

2:00~2:30 図書室見学

司書の方に話を伺う。図書室には整理された本棚が並び、その棚の上には児童の工作作品が並んでいた。横の部屋には、ビデオデッキが4台ほどおかれ、教室のテレビで見える場合は、そこから流すようなシステムになっているらしい。

その後コンピュータ室を見学。各教室にも3、4台コンピュータがおかれていたりもするが、それらは機種が違っていたりして統一されていないなど感じたが、この部屋のなかには、統一規格のコンピュータが30台ほどそろっていた。2年生がそれぞれ進度に合わせたソフトを使い、足し算の筆算の計算練習をしていた。

一人に一台のコンピュータがあることと、専門の先生が配属され、子どもに教えている状況をうらやましく思った。

2:30~3:00

アン先生の教室に戻り、明日の歓迎会のことや書写の授業の打ち合わせをする。先生方は、時刻にきっちりしたがって授業をされているなど感じた。担任の先生も休憩時間がないぶん、一日一コマの授業は空いていて、次の授業準備をするそうだ。ソファのある休

憩室でコーヒープレイクしたりすることもできるようだ。

授業が終わると子どもたちは、地区ごとに分かれて黄色のスクールバスに乗り、帰宅している。低学年は先生が引率し、バスのところまで行っているようだが、高学年の子も同じバスで帰っていた。安全面や校区が広いことなどの影響があるのだろうが、入学後すぐからそうなのなら、1年生がなれるまで大変だと想像する。

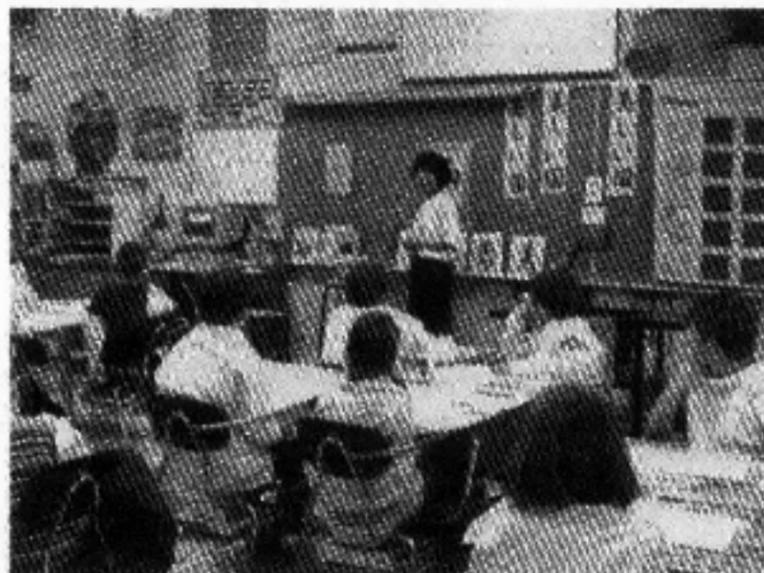
3時がすぎると先生達もすぐ帰り支度を始めていた。仕事は家に持ち帰ってすることも多いようだが、学校にはあまり遅くまで残ることは少ないようだ。

3月28日(水)

今日は、計画準備してくれていた歓迎集会(Assembly)があるということで、アン先生も朝はやく目覚めたということで緊張していると話されていた。この日の午前は、Mieko Thomson という方が通訳をしてくださることになった。この女性は、不動産業を営み、現地の方と結婚されている。

8:00~9:00 Bates先生 4年生

書写の授業をおこなう。教室はカーペットがしかれているので、朝登校してくる前から新聞を机の下にしく。まず日本から用意してきた色紙、短冊、5年児童の書いた条幅作品の紹介をする。水書用紙を準備していたので班で交替に「一」「二」を書いてもらう。次に黒板を使って、「山」「川」の漢字の成り立ちを藤本先生とのTT形式で絵と文字を使って提示。書き順を押さえ、墨汁と半紙を使って書いて体験してもらった。子どもたちは、初めての体験であり、興味を持って書いていたようだ。上に古いワイシャツを反対に着るという準備をもらった。(図工の時など服を汚すおそ





れのある時に着るように学校に準備されているようだった。)墨汁を落とさないようにと何度も注意していたためか、下を汚すこともなかった。一枚の半紙しかなかったので大小取り混ぜて、山と川を書く。机間巡視すると、文字の形を追い、右から左へ書いている子も見られた。一斉指導で「上から下へ筆を動かす」と強調したつもりだったが、書き順をあまり押さえてなかったためにおこったことだろうと思った。

その後、準備していた大きな筆を使って、4つ切画用紙を4枚張り合わせた用紙に「夢」と書いた。「夢にはdream in sleepとhope in futureの意味があるね。」と言ってみただけが通じたかどうか。作品の右に自分の名前をサインし、印を押して仕上げる。子どもの作品にも空き地を見つけ、サインするようにさせた。

子どもたちは、授業時間がすむと次の教室にいつも移動しているが、この日は学校中が何かあわただしいようだった。私たちも書写の墨汁や筆洗いに手間取ってしまった。洗面所に行くとそこでは、一部の子どもたちが着替えているところだった。

9:00~9:45 Roberson先生 3年21人

アシスタントの先生1名は後ろでいた。

かけ算の5の段、6の段を復習。歌に合わせてリズムよく唱え、日本と違うのは振り付けがあり、途中で足も振り上げ、楽しそうに歌っていた。その後本題の7から9の段。席を立ち教室の前あたりで座る。先生がかえるの小さなぬいぐるみを投げてそれを受け取った子が答える。先生が「7 times 8」と問えば、「56」と答えていた。もし、間違ったり答えられなかったときには、別の子に質問がされていた。その後で失敗した子にぬいぐるみが投げられもう一度答えるようにしていた。

席に戻り、黒板OHPを使ってかけ算の筆算。423×

4という問題が出ると子どもは計算を解き、自分のもっているカードの数字と見比べる。1692と書かれたカードは2枚配られているので、はやくその答えを見つけた方が勝ちなので「It's mine.」「Find」と叫び、先生のところにカードを見せに行った。何かもっているなど見ると小さなキャンデーであり、もらった子はすぐ口に入れていたのには、驚いてしまった。子どもも力があるはずである。他のクラスでもキャンデーをもらっているところもあった。教室の後ろにクラスの子の名簿に点数が書かれていたので、アシスタントの先生に聞くと、小テストの得点がある基準まで達するとアミューズメントパークへいけるご褒美がもらえるとのこと。2重の驚きであった。ここまでくるとこのシステムは、学校で認めているのだろう。毎年5月に行われる州の統一テストのために今アメリカでは学校も教師も子どももがんばっているとは聞いていたのだが、そのためにこういう賞まで考えて実施しているとは思わなかった。

10:00~11:15

Assembly "Celebrate America Celebrate Japan"

体育館全校生と保護者、来賓

体育館の側面は、移動式の階段状の椅子席が用意されており、保護者やジャクソン州の教育長などの来賓の方が並ばれていた。コーディネーターの世羅先生と小野先生も招待されおいでくださっていた。アン先生が司会者であり、私たちは各学年の発表が次々に行われていくとのプログラムをいただいた。

まずは、幼稚園の子たちが印刷した星条旗を胸に掲げ入場。アメリカ国歌の斉唱。続いて紙を反対に向きを換え、日の丸を胸にして君が代が流された。それも2番まで演奏された。アメリカで君が代を歌うことになるとは、印象に残ったが。日本人とアメリカ人とでは、自分の国に関する感じ方、接し方考え方がずいぶん違っているようだ。次にジャクソン州の教育長、校長、副校長、カフェテリアのマネージャーのMrs. Annette Burns、それに生徒会長Katie Crispさんの歓迎の挨拶並びにたくさんのプレゼントをいただいた。

7年生の阿波踊りは浴衣をいろいろなところからかり集め、作ってもらったりもしたそう。私たちが持っていた編み笠をかぶり、アメリカ流にアレンジして踊ってくれていた。

4年生のチェロキーの友好の踊り "Hey Yo Ganawah"

は前日2年生の音楽の授業に呼ばれてそこで教えてもらった。私たちもいただいたバンダナを付け、子どもたちの踊りの輪に加えてもらった。6年生は"Tue Tue"というガーナの踊り、5年生は"The Black Nag"というイングランドの踊り、7・8年生による"Cowboy Cha Cha, Boot Scootin Boogie, Rebel Strut"というカウボーイの踊りは、圧巻であった。ジーンズやカウボーイの皮ズボンなど思い思いの服装で、体育館じゅうを音楽に合わせて踊る姿に、アメリカの若者らしさを感じた。その中で、ハンディキャップを持つ子どものなかで、自由に動くことができる事で参加しているのだと思うが、3人の子が大型三輪車、訓練用の自転車に乗って踊りの前に登場するという場面があった。特別な驚きもなく、自然な暖かい雰囲気を迎えている感じがした。

この学校のクロッキングチーム(タップダンスのようなもの)による"Ragtime Annie"アパラチアのクロッキング、チアリーダーによる"You Make Me Feel Like a Woman"というダンスなど次々に目の前に繰り広げられるプログラムに我を忘れてしまった。

最後は6年生の踊りと演技、5年生の歌と合奏による"The Stone Cutter"日本の民謡調オペレッタ。石切の「藤作」という主人公が、編み笠をかぶった僧の姿で現れたのだが、石切の作業をしている人には見えなかった。一生懸命仕事をし、だんだん太陽、雲、雨を降らす仕事など変わっていくが、最後は山の偉大さがわかり、元の石切に戻るという筋であった。舞台ではバレエダンス、パラソルのダンス、着物姿の踊りなども盛りだくさんで、音楽には「さくら、さくら」の演奏など日本的な音を出す工夫もなされていて、準備のほどに頭が下がった。

集会の最後私たちが感謝の言葉を述べた場面で、私は興奮でかなり混乱して準備していた事もいえなかつ



たりしたのだが、わかりにくい英語にも耳を傾けてくれていた。最後にロン校長が挨拶しているときにみんなが片づけにかかり、動き出したのには少々驚いた。後で給食の時間がきていたからいそいだのだろうと聞いた。ここでも時間はかなり厳格に守られていることを知った。

11:30~12:30 昼食

この日は特別で、カフェテリアの一角を私たちの特別な席として用意してくれていた。先の挨拶でカフェテリアのマネージャーが言われてたとおり、全員に割り箸が用意されていた。この箸は、日本料理店に置かれていた箸と同じ種類で裏に持ち方の説明があるのだが、子どもたちはなれない手つきで必死に口まで食べ物運んでいるという感じでほほえましかった。この昼食時、我々の前にはジャクソン郡の教育長が座られ、日本の教員研修制度などに関心を示され、質問があった。現地では大学院などで先生が短期や長期の研修を受けることはできるように、施設設備も整ってきているが、現場の先生同士で研究授業をして教育法について討論するなどという制度はないということであった。その方は、大学院で教育を受け、現場での経験も持ち、日本の教育のこともよく勉強していることがうかがわれた。

12:30~1:00 Middleton先生 1年

前日訪問した学級だがこの日は、午後からで担任の先生とお話することができた。彼女の父親が海軍で日本にいた話から、家族の写真も見せて話してくれた。宿題には、学級においてある小冊子を持ち帰らせ、家族と読んだりして、それについて質問をするということであった。その子の読解力に合わせて本も変えるそうだった。

1:00~1:30 Graham先生 2年

教室に入ると、頭にそろいのウサギの耳をつけたかわい子達が待っていてくれた。近づいているイースターに備え、ウサギの劇の練習中ということで、私たちにを見せてくれた。後の方で出てきたのだが、オオカミかフクロウかになっている役の子がすごく声色も工夫していた。日本であれば、うさぎの耳は画用紙などで作るのだろうが、ここでは市販のカチューシャ状のウサギの耳を使っていた。

1:30~2:00 幼稚園

幼稚園のアシスタントの先生が、地元の民族楽器



Dulcimer という琴のような楽器を演奏して下さった。36本の弦のある種類もあるそうだが、爪を使って音をだすそうだ。ショートブレッドが好きだという内容の有名な曲だそうだが、幼稚園の子どもが円座になり膝をたたいてリズムに乗って心地よさそうに聞いていた。5分以上聞いていたと思うが、しゃべる子もいらず集中力はかなり日本の子どもよりは勝っているように感じた。

その後、別室に移動。Ducks on the Tuckという奨学金制度があるということで、紹介してもらった。一口5ドルの申し込みで一つのアヒルの模型に自分の好きな名前をつけ、レースをして1位になった人には、タイヤの賞品もあるというお楽しみ付きの企画であった。この制度は、Fairview小学校でも呼びかけられていたし、広く州全体で行われているのだろう。

それとは別に、小学校の玄関近くで保護者の方が手作りクッキーを生徒たちに売っていた。その収益は、学校の設備などを買う費用となるとのこと。保護者のボランティア精神も感じたが、日本では学校内での自由な飲食は許されていない、違いを感じた。

2:15~3:00 DDC Lifeskills

ハンディキャップを持つ子どもたちの教室を参観。



地域の子どもすべてが通う公立校であり、肢体不自由児、知的情緒的障害児が学習している。ソーシャルワーカーなどの専門家とも提携しているとのこと。dwarf (小人症)といわれる子も何人か在籍し、車いすなどを使って移動していた。障害の程度に応じて二つの教室に分かれていたが、真ん中にはかなり設備の整った調理台がおかれ、日常生活の学習に役立てられているのだろう。子どもたち手作りのクッキーをいただいた。重度の教室には、体を動かす訓練器具、学習用具など日本と比べてかなり充実していることを感じた。日本では、障害児学級への入級を嫌う保護者もいるが、ここではどうかと質問した。そういう場合もあるが、専門家とも連携し、相談もするし、保護者には責任を持って子どもを一人の大人に育てる必要があるという意識も強いので、協力してくれるようになっていくという話だった。

3月29日 (木)

8:00~9:00

Loughlin先生の初日に行ったA. G. クラスの子達と書写の授業をする。今回は藤本先生がT1になり、山、川、木、森など漢字と絵を結びつけるクイズのようにして紹介。その後、水書用紙と墨汁を使っての練習をしてもらった。この教室は全面カーペット張りであったので長机に用意した習字道具で順番にトライしてもらった。その後、私が大筆で「道」と書いた。日本語の道にはroadの意味と人の進むべき道、考え方などいろいろな意味があると伝えつつもりなのだが。「夢」も「道」も翌日にはドアのところなどに掲示してくれてあり、恥ずかしくもありうれしくもあった。

9:00~9:30

幼稚園のクラス14名?。5名の女子が欠席。小グループに分かれて活動している。桜か桃の花を用紙に筆や手も使って描いているグループ、おそろいの防水の上着を着て水遊びの水槽の用具に水を流して実験している子。ブロック、ままごと、積み木の活動をする子、2、3人の友達と一緒に活動して2名の先生が絵とパズルの指導をしていた。掲示には「腹ぺこあおむし」"The Very Hungry Caterpillar"の感想画があった。他の面には"How do we take care of our bodies?"と題したスナック菓子、甘いお菓子の害、外で運動することの必要性を訴えた掲示が目があった。アメリカ人は



概してコーラやフライドポテトが好きであることを聞いていたし、現地の生活でそれも感じていた。また、大学のカフェテリアでもすごい色つきのジュースばかりがおいてあり、アメリカ人の健康教育はどうなっているのだろうと感じていたので、その掲示をみて、少し安心もしたのだが、逆に知識はあっても実生活には、あまり生かしていないのではとも感じた。

9:30~10:00 Cameron先生 3年21人

スペリングの学習を見せてもらった。スペルの形を体を動かしながら、再現したりして、記憶に残りやすいように工夫して学習させていた。poison toilet topsoil disappoint soil boil foilなどの単語を教師が発音し、子供が発音し、スペルを書いていく。OHPを使って自己採点をするというシステムのようにであった。

10:00~10:30 Mincey先生 5年25名

2名は、骨折などで見学

体育館で体育の授業を見学。体育は P. E (physical education の略語) でいわれることが多かったが sport activity ともいうことを教えてもらった。旗、マット、縄跳びのロープなどが準備されていた。ランニングの後、日本でいうジェンカを別のリズムカルな曲にあわせて踊っていた。体育は途中であったが、次のクラスへ移動。

10:30~11:00 Fulk先生 3年19名

geography ノースカロライナ州の地理

cursiveといわれている筆記体のアルファベットの表を見つける。3年生で筆記体を学習するそうだ。ただ、実際にはあまり使われていないように思ったが。あとで、地元でとれる蜂蜜、名所のついた磁石などのプレゼントをいただく。

11:00~11:30 Lora Cox先生 5年24名

social study



カナダの人物についてグループで調べていく学習。カントリーシンガーのミネトバ、アイスホッケー選手 James Heming など有名な人物をインターネット、本、雑誌、新聞などで調べまとめていった。各班とも模造紙のような用紙を使って等身大の人物を描き、服装、人柄、特徴までも表現しようとしていた。グループによっては、粘土やビー玉のようなものでその土地の様子を立体的に表していた。総合的な学習になっていると感じた。

11:30~12:15 カフェテリアで昼食

カフェの主任の女性がいろいろサービスしてくれ、気さくに声をかけてくれる。学校の生徒たちにとっても優しいおばちゃんといった存在であろう。

12:15~12:45 Douthitt先生 1年生

大きな絵本の周りを囲んで読み聞かせをしてもらっていた。一年生の好きな学習としては、コンピュータ、読み聞かせ、絵をかくこと、算数、クッキング(クッキーなどのデザート、トマトスープ)などだそうだ。日本の場合とあまり変わらないと思うが。

12:45~1:15 Anne Loughlin先生

Academy Giftedの才能クラス

時間調整のこともあってか授業の合間といった感じで、はじめはアン先生が昨日のセレブレードの集会を移したビデオを見せてくれていた。専門のビデオカメラの人にとってもらっているようですぐに再生できて編集するようであった。実際サマリーミーティングではうまく編集したビデオを使っただけの発表であって聴衆にもよくわかった。

子供たちがだんだんと教室に戻ってきたので、藤本先生が持ってきていた剣玉とだるま落としに挑戦してもらった。私たちの試演よりもうまくできる子も一、二名でてきた。だるま落としの方が難しく興味を引い

たようだ。

1:15~2:15 West先生 7年生のクラス

このクラスでは折り鶴などクラフト紙で折れるようになっていた。今までは分厚い紙で折っていたので、折りにくかったろう。私たちが持っていった金銀やぼかし入り、千代紙などに人気があった。私は風船を藤本先生は、折り羽鶴の折り方を指導。7年生であり、今までの経験もあるので何とか形が作れていった。友達同士で教え合う姿も見られた。このクラスでは折り鶴など色が用紙でおれるようになっていた。それで私は風船を藤本先生は、折り羽鶴の折り方を指導。7年生であり、今までの経験もあるので何とか形が作れていった。

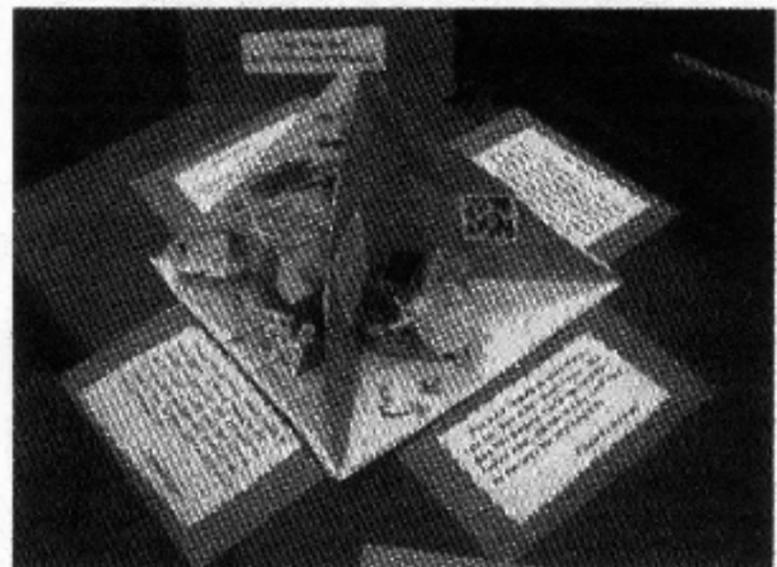
2:15~3:00 7, 8年生のBandとChorusの授業
7, 8年合同で55名ぐらい

この授業に向かうため、長い廊下を歩いていったが、13, 14歳という生徒たちは割とがやがやと廊下を歩いていた。「日本と同じでやかましいでしょう。」とアン先生がおっしゃった。アメリカのこの小学校の生徒たちは休み時間もないということもあろうが、廊下を走っている子、おしゃべりをしながら通る子はいなかった。実に幼稚園の前段階の子は担任2名が持つロープをもって通行しており、本当に静かにできていた点が不思議であった。

まず、音楽室で合唱の授業を見学。発声練習から始まった。「ナー、ネーエー」「イアイアイアイー」と練習。口は二本の指が入るぐらい、大きくあけてと先生の実演があり、日本の発声練習風景とにているなと感じた。バッハの曲を男女の生徒が3部に分かれての合唱であった。男子は真ん中でバスを担当。女子は左右で、ソプラノ、アルトに分かれての練習。CDの伴奏に合わせて先生は指揮の担当。部分練習では先生がピアノで音を取り練習するところもあったが。概して声は出ていてこんなクラシックの歌でもまじめに練習に取り組んでいるんだなと感じた。

すぐ横の教室では、7, 8年生の別のグループが、トランペット、トロンボーン、フルート、クラリネットなどの金管木管楽器を練習していた。この担当は大学生のシニアだそうでインターンとして働いているようであった。

ここで実習をしている学生をみて、教師の評価について聞いてみたのだが、経験の浅い先生は一年に4回



校長による評価授業があり、ベテランになると年1回の評価授業があるという。

木曜の夕方、月曜日に訪問したFairview小学校のカリキュラムフェアへおじゃました。保護者の参観に向けて月曜には準備も大詰めといった感じであったが。

この小学校は附属校的な色彩が強いということだったが、今日本でも本格実施されようとしている総合的な学習をよい形で実践している学校だなと感じた。7, 8年生の展示コースでは、環境問題を扱っていた。内容まではよくわからなかったが、川魚、雲、など身近な実証や調べ学習からの展示であったように感じた。2, 3年生は自分たちが学習した物語や本から学んだことを工作-ピラミッド型、さいころ型、箱庭、変形本の中に絵や写真文などでまとめているといった感じであった。

子供たちは保護者とカフェテリアで軽い食事をとり、自分たちの展示を一緒に見て回るようになっていて、兄弟たちと語り合いながら見て回っていたようだ。日本

の参観授業とはかなり違った感じである。中に自分たちが練習した寸劇をみてもらっているクラスもあったようだが、時間の打ち合わせをしているのであろう。

3月30日（金）

Cullowhee Valley Schoolでの最終日

8:00～8:15

自由に校内を歩いて写真を撮ってもよい時間を設定していただいた。学校の方の好意、協力体制に感謝した。主に掲示を中心に写真を撮らせてもらった。この3日のうちに変わっている掲示もあり、一ヶ月に一度ぐらい変えているとのこと。絵だけでなく、理科や社会関連の掲示物も多いと感じた。

8:15～9:00 Cheatham先生 5年24名

全員が円形に座り、マスコットのぬいぐるみを投げそれを受けた生徒が質問に答えるというシステム。ある動物は何を食べるか、環境問題、カナダの地理、スベルのチェックなど問題は多岐にわたっていた。

9:00～9:15 コーヒーブレイク

教師の休憩室でコーヒーをいただく。職員室のようなものではなく、教師一人一人の教室が決まっており、生徒の方で時間がくれば移動していく。決まった時間割もないようなので、誰かカリキュラムのリーダーがいるのか、朝スケジュールをしっかりと覚えておくのか、どういうシステムになっているのか疑問に思った。

9:15～10:00 Hooper先生 2年19名

低学年用の理科室にて（幼稚園から3年生までの生徒が使う）。教室の隅には、植物の植えてあるプレートが階段状の棚に並んでいる。室内にあるので、芽を出し始めた直後は細かな観察ができるであろうと思う。

低学年の理科室ということで前の棚には、薬品というより針金、電池など実験に使う道具類が整理されて



いた。

子どもたちはプラスチック製の卵型のケースに入っている中身をケースを振ってでた音によって予想し当てていくといったクイズ形式の実験をやっていた。中身は、米粒、マカロニ、毛糸といったような8種類ほどのもので、子どもはそれらの印刷してあるプリントをみて、何度も振ってみて席によって分かれたグループごとに相談し中身を予想していた。また、教室の前の教卓がよく見えるように天井に取り付けられた鏡を使って教師は、ボールに2つの卵を浮かばせ、沈むのと浮かぶのは、ゆで卵と生卵とどちらと考えるかを質問し、子どもは理由をつけて考えを発表していた。イースターの祝日をひかえ、卵の中身を当てるといった授業で楽しみながら、体験を通して予想、観察力を付けるといった点で意味のある授業であると感じた。

この授業の後でfire drillと呼ばれている避難訓練が行われた。月に1度、実施されているそうで、平屋の校舎のあちこちの出口から教師の誘導で静かに集まり、全員集まったところで訓練はおわり。校長などの話を聞くといったことはなかった。

私の観察した限りではあるが、生徒たちは校舎の中で学習していることが多いようだ。休憩時間がないことも関係があるだろうが、遊んでいるのを見たのは昼食を早く食べた生徒が、カフェテリアの横のアスファルト敷きのコートでバスケットをしているのを見ただけである。

また、雨が降っていたからかもしれないが、幼稚園の水遊びも教室の隅にわざわざ作った大きめの水槽で行っていた。屋外で大胆にした方が楽しいのではないか。だが、安全面の配慮から屋内での活動が多いのではとも想像する。

放課後、3時になると一斉に生徒たちを自宅までスクールバスで送っていくことにもやはり、高学年の子どもたちの学校での活動を制限しているのではないかと思った。ただごく一部のそのときは10人ほどであったが、放課後ダンスの練習をする生徒たちがいた。課外のスポーツクラブが、他種類存在し、夏は野球、冬はアイスホッケーと季節によって違うスポーツに親しんでもいるといったことは聞いていたのであるが、活動場所も学校を離れたところでコーチがついてしているのであろうか。

10:15～10:45 Nichoerson先生 6年

Reading class

"Stone Fox" という作品について学習していた。黒板にTitle: Author: Genre: Setting: Characters: lot: ch. 1 ch. 2 ch. 3 といったカードの横に生徒たちが静かに挙手して答え、解答していくといった授業。さいころの表面に自分でこの物語について質問事項を書き、友達がさいころを振ってでた質問を答えるといった学習の進め方も見せてもらった。ここでは、ゲーム的な要素も取り入れているが、生徒たちは騒がしくならずまじめに授業に取り組んでいたのが、印象に残った。

10:45~11:05

スピーチセラピストの資格のある先生が一对一で発音や発話に問題のある生徒を教えている教室を訪問。自分の勤務校にも二教室「ことばの教室」があり、同様の個別教育を行っているため興味を持って参観する。授業内容は、質問カードがあり、教師が質問し、生徒が答える形式で進められた。「米国の独立記念日は?」「時計には全部で何個の数字?」「一時間は何分?」AM、PMの別は大切よといった点や一年は何ヶ月で何周になるか、曜日の呼び名はなどの時間の学習をしていた。教師の表情は豊かで、明るい環境の教室、設備も整っているようであった。

11:05~11:30

最後にRon Yount校長先生にお会いする機会を与えていただいた。校長室の前には二名の秘書の方がパソコンを前に仕事しておられた。校長室は、明るく図書も多く、自分の好みの写真、飾りなどもあり、快適な空間となっていた。そこで学校の教育方針などを説明するものはないのかと質問したのだが、簡単なパンフレットはいただけしたが、時間も短く、英語力のなさから核心的なお話は聞けなかった。

Ron 校長から手作りの木彫りのおもちゃとプロペラをまたいただいた。木のおもちゃは振動を起こさせ、プロペラを回す仕掛けとなっている。

11:30~12:00

金曜日は授業は昼までということでカフェテリアで最後の昼食をいただき、名残を惜しんでいるとアン先生はなにやら時間を気にしている様子。午後の予定があるのかも急いで校舎を出るとそこには200名をこえるかの生徒たちが待っていてくれた。都合の着く生徒たちが見送りをしてくれたのであった。最後のプレゼントに大変感動して Cullowhee Valley 校をあとにし

た。アン先生の車でマディソンホールまで送ってもらうなか、感謝の気持ちを伝えた。昨年も昼休みに帰られたので数十名の児童とお見送りをしたのだが、それを覚えていてくれた様子。立場を変えて考えてみる大切さを学んだ。アン先生は午後はコンピュータの研修が入っているとのこと。次の課題へ取り組んでいく姿勢は、見習いたい。

ここで配属校への訪問は終了した。広々とした環境でわりに社会的、経済的に恵まれた家庭の子どもも3割ほどいて、その3割の方はPTA活動にも熱心であるとのこと。金銭的な面でも、幼稚園では補助の先生として、また印刷などの手伝いをするなどのボランティアの協力も得られて、安定した環境で学習が進んでいると感じた。

ただ私は、米国の子どもは、しっかり自分の考えを述べて友達と討論をして学習を進めているのとはばかり思っていた。ここで見る限りは、ドリル学習や基礎的な読解練習の授業が多かったように思う。これは州の学力テストをひかえている時期の影響が大きいのだろう。その中でも日本からの先生のためにと全校で一ヶ月も前から、"Celebrate America, Celebrate Japan"の集会を開いてくれた点はありがたいと感じた。

夕方、アン先生の自宅へ。藤本先生と夕食会へお招きにあずかる。お宅はWCUキャンパスの裏を抜け、丘というより小さな山の頂上に位置してとても見晴らしがよくすてきな環境にあった。二匹の犬がいて、壁や暖炉の周りにはすてきな調度品が並べてあった。

特にガラス製のリングの置物が目についた。リングは先生を象徴していると聞いていたので話題にすると、それは数年前アン先生が州の中で一番優秀な先生であると表彰された時の記念品であるという。アン先生の学校の中での位置もかなりウェートが高いと感じていたため納得することができた。

台所で準備中のアン先生をじゃましながら、日本から持っていった抹茶をたててみた。器は借りて茶筌でたてて味わってもらったが、きっと苦いと思ったことであろう。

クリス先生ご夫妻、藤本先生のホストをしてくださるチェロキー小学校のローラ先生がお料理も持ち寄り、夕食会が始まった。自身の魚のグリル、鶏肉と野菜のグリルなど私たち日本人のためにと考えてくれている

メニューだと感じありがたかった。ワインやビールもいただき、いい気持ちになったところで私はクリス先生のお宅へ、藤本先生はローラ先生のお宅へと向かった。

クリス先生のお宅は、アン先生のお宅より30分ほどのところで、急な山道をどんどん登っていくのには驚いた。冬の雪道の状態など聞きながら、到着。二人姉妹のお姉さん18歳のグラッタがいて、私は友達の家泊まりに行っている14歳のジェナの部屋を使わせてもらうことになった。ここにも一匹の賢いシェパードがいてよく番をしているようであった。壁にはパッチワークの作品が多く飾られていた。彼女のお母さんの作品は大きくてすてきだった。また木のいすにもペンキで色を塗り、飾るといったところはアメリカ人の住居、インテリアに関するこだわりがあるのだとおもう。すてきなアメリカンテイストの木造の家で7年前他州から引っ越してきたときには一軒家状態だったという。ご主人はWCUの生物学の先生で、特に木が専門とのこと、ご夫妻ともアウトドアが好きで、ハイキング、カヤックと趣味が自然相手なのでこの土地を選ばれたとのこと。

3月31日(土)

ホームステイ第一日。目玉焼き、トースト、コーヒーの朝ごはんをカウンターでいただいた。アン先生宅でも感じたのだが、ご主人もさりげなく洗い物をしたり、ものを運んだりして手伝っている。アメリカの家庭の様子なのかな。朝食後、居間のソファのところにあるたくさん本を見せてもらう。写真の絵で構成された "Stranger in the Woods" という本は冬の山の中で野生のしかや野鳥ウサギなどが子どもの作りおいた雪だるまのにんじんの鼻や帽子の上の木の実、種、コーンなどを食べていってなくなる。そこへ雪だるまを作った兄弟たちが様子を見にやってきて、食べ物が全部なくなっているのを見て同じようににんじんや木の実で顔を作り、動物たちが困らないように雪だるまが溶けるまで見にこようねと帰っていくという物語である。実はこれは、クリス先生が私のじっと見ていろいろ質問していたのを覚えていてくれて、6月の来日時におみやげにもってきてくれた。本当にうれしかった。冬の一日、子どもたちに見せて読み聞かせたい一冊だ。藤本先生とローラ先生クリス先生宅へ、ジェナといっ

しょにチェロキーミュージアムへいく。ご主人は休日恒例のマラソンをしているとのこと。

ミュージアムでは、地上創世の伝説や昔からの薬、亀の甲羅を使った膝当てなど民具、生活様式などの展示が興味深かった。日本の創世伝説との対比ができればおもしろいのにといい話もでたのだが。ドリームキャッチャーというお守りが気に入り、おみやげに購入した。

次に大きなカジノに連れて行ってもらった。ローラ先生は時々いっているとのこと案内してくれた。ジェナは未成年ということで本を読みながら、車で留守番。テレビで見るようなカジノの雰囲気。大手のチェーン店としてチェロキーの観光地に進出してきたとのこと。カジノに隣接して14階建のホテルの建設中であった。日本と違い郊外には高層ビルがほとんどないので目を引いてしまった。いろいろなゲームがあるらしいがやり方も難しく一時間ほどで帰りのバスに乗る。私は10ドルほど勝った。ビギナーズラックであろう。昼食は、メキシコ料理系のお店で。タコスサンドウィッチを食べる。ジェナは、豆料理を注文していた。ボイルした豆類が食卓によく並んでいる。

ここでローラ先生と別れ、4人で "Cowee Fall" へ向かう。香川先生のいっている Cuwee 小学校の近くということでかなり山をのぼり、車から下車。一時間ほどハイキングして、滝に到着。このあたりには滝が多いとのこと。大きな石の上で休憩。気持ちがよかった。川には、アメンボがいた。チェロキーの創世伝説にてくる □□? spider であるそう。

帰りにシルバのマーケットによる。やはり肉類の固まりは巨大。調味料とアイスクリームを買って帰る。夕食はクリス家の食卓で。暖炉に火が入り、暖かさを感じる。グラッタが戻っていてにぎやかに夕食。デザートには、朝クリスさんがしたごしらえをしてくれたブルーベリーパイとアイスクリームが。とてもおいしかった。食後ご主人は地元の大学チームのバスケットのテレビ中継に夢中。いいところまで進んでいるとのこと。

ベイツ家では、家族がそれぞれに楽器を弾くのだそう。姉妹は、ピアノとバイオリン。ご主人はバンジョーでクリスさんがギターであったか。リクエストしてみたのだが、演奏してもらえず残念。あとで日本から持っていったビデオをみんなで鑑賞。冬の第一小学校では、制服があること。給食・授業風景、地域の

祭り、初詣など説明を少し加えながら。夏時間が始まるというので、時計を一時間繰り上げて、12時頃就寝。

4月1日(日)

ホームステイ2日目。午前中にベルトモアエステイトを観光することになっていたのですが、7時30分頃出発。居心地のよいクリス家を後にする。シルバの町の小高い丘にあるローラの家を探す。こんもりと木が茂っていて近くには小川のせせらぎが、聞こえる。町でも自然あふれるところで住むのが好まれているんだと思った。ローラ先生は、昨年先生を始めたばかりなのに、一人で一家にすんでいる。アメリカ人の自立への意識は、日本とかなり違っている。小学校では、先生中心でかなり管理されている感じがするのだが、13、14歳頃からはいっきに自立していく感じである。社会的な違いも大きいだろうが、この違いはどこからくるのであろうか。

ベルトモアハウスの大きさ、豪華さに目をおおわれた。この家の建設者は、どうやって財産を築いたかを訪ねると"Forestry"を教えた人とのこと。初めて聞く言葉に何度も質問した。どうやらアメリカの大地にあった木を植えていくといったことが大切だったようで、森林学者が財産を築いたのだということらしい。

その後この邸宅関係の職人さんや出入りの人のためのお店が集まってできた街にあるおいしいサンドイッチ屋さんでの昼食。英国風のインテリアで紅茶も幾種類もあって、すてきな食器であった。おみやげやもかねているので、イースター関連のチョコ卵やろうそくバイオレットのうさぎのぬいぐるみなどおみやげにした。

約束の2時にバンに乗り込み、首都ラレーへ向けて出発。鳴門地区派遣の先生たちと合流。疲れと眠気と戦いながら、サマリーコンファレンスに向けての発表内容を考えた。5時間は長かった。

4月2日(月)

ホテルの部屋の一室にWCUグループ鳴門地区派遣の参加者と広島川上先生が集まり、徹夜で発表準備。私は何を隠そう徹夜というものをこの日まで経験したことがないということで、この日のことは印象に残りながら、記憶が定かでないところもある。朝部屋に帰って、シャワーを浴びたのだが、変に緊張して眠くはなかった。

ホテルの2階の広間での会議、アン先生、クリスさん、ローラさんなどアメリカで知り合った先生方も多く見え、会えるのも最後の日なのかという感慨。

スペンス先生、米川先生の挨拶に始まり、3地区代表の先生のスピーチで始まり、9:20~10:00まで広島、ECUグループの発表。10:15~10:55まで大阪地区UNC-Wグループの発表。模造紙に紙皿などを使って視覚に訴えるグラフなどを活用。はっきりいって私は頭がぼんやりしていて申し訳ないが理解できていない。

10:55~11:35まで鳴門地区WCUグループの発表。パワーポイントと重要な英単語を書いた模造紙を使った発表。「アメリカの教育における公平さの追求」という題で、六項目をそれぞれ一人ずつ分担。1 はじめに(アメリカの国民性)、2 育てたい子ども像、3 ノースカロライナの教育について、4 私たちが学んだこと、5 私たちが疑問に思うことや提案、6 終わりに、という視点での発表。アメリカという国はいろんなルーツの人が集まってできた国であること。だから、国家のシンボルとしての国旗や国歌を大切にし、国民としての国を敬う気持ちを育てるためにも、学校でも教育されているんだということが実際に感じられた。それから、学校においては公教育として、家庭的に問題があって朝食が食べられない子には、無料で朝食を用意しているという点には驚いた。また、障害のある児童も特別の学校ではなく地元の同じ学校で教育するということは、日本でも話題に上り、ノーマライゼーションとして日本の教育にも取り入れられている点だ。宿題を何回忘れたら、家庭へ連絡。何回で別室での学習などと学校で統一して決まっているとのこと。ある程度までは公的な支援で、環境を整えるから、そこから先の学習に関して、個人の努力を求められているように感じた。その制度を見て米国の教育の公平性を論じた。

3地域の発表が終わって、質疑。12時から食事。姉妹校提携を結ぶ学校どうしの調印式が印象的であった。

その後、アメリカ側から3人の発表。アン先生からは、3月28日に体験したばかりの"Celebrate America Celebrate Japan"の集会についての発表があった。残念ながらビデオを見ながらも、目を開けているのが精一杯で英語が少しも頭に残らなかったという点が悲しかった。サマリーコンファレンスが終わり、休憩後、

州議会見学。赤いすに座らせてもらったのもいい思い出になった。上院と下院議場の雰囲気の違いと実際議会が始まったときの点でバラバラに見えた議員の様子にアメリカ的なものを感じた。

4月3日(火)

小野先生に教えていただいて、おいしいベーグル屋さんで朝食。いろいろな種類のパンがあって、サンドイッチ風のベーグルがおいしかった。

Exploris School, Exploris Musiumの見学。この学校は、チャータースクールであって、博物館立の学校だそう。この学校に入学することを保護者も子どもも望み、試験に合格して入学しているということ。代表の児童が案内をしてくれたのだが、自分たちの学校に誇りを持ち、学習に励んでいると感じた。日本の地図を何か広告のような用紙を切り抜いてはりつけてあったり、ヒトラーのゲシュタポの学習をしての掲示なども暗い感じがでていて掲示物が印象に残った。博物館も一日分の水をじっさいにバケツ何倍分というふうに展示してあったり、アンネフランクの部屋を再現してあったりと子どもにわかりやすいように展示してあると感じた。

午後は、州議会の前の科学博物館を見学、恐竜が天井に舞い、生物の進化とか森の中に迷いこんだ感じとかうまく雰囲気を出していると感じた。別館のアメリカの歴史、南北戦争の様子や開拓者の家庭の様子などの社会的な展示は急ぎ足で見たのだが、ゆっくりと見たかった。

州の教育委員会を訪問。各教科、学年に分かれてのカリキュラムが本棚に所狭しと並べられていた。私は、幼稚園教育で使われている資料などを購入。

夕方、ショッピングモールに出かけ、帽子、絵本、クリスタルの置物などおみやげを購入。たくさんのお店が並んでいて、迷いそうであった。夕食は、日本料理店「歓喜」で、鉄板焼き、お寿司などをいただく。日本からの参加者が全員はいても十分な広さがあり、日本の職人さんもいる店で、おいしくいただいた。

4月4日(水)

朝6:30にスーツケースが空港に向けてホテルを出発。荷物の整理に苦勞した。7:30にバンに分乗し、空港へ向かう。二つの鞆に分けていたし、重い習字道具もおみやげとして残してきたので、重さの制限には合格。9:05 ノースウエスト機でデトロイトへ向け出発。空港の免税店でチョコレートやバッグなどのおみやげを買い、立ち食いの店でうどんを食べる。懐かしい味だと感じた。

1:20 ノースウエスト69便がデトロイト空港を関西国際空港に向けて出発。隣の席は広島大附属三原小学校の川上先生であった。先生はこの研修中、一人離れて鳴門地区の多い、WCUの班に属し、歓迎会では阿波踊りも一緒に踊ることになった先生だが、観察力が鋭く、アメリカの教育事情などもよく勉強され、サマリーでのアメリカ教育の持つ公平性ということを初めて言及されていた。川上先生の持っている知識を使い、事象をまとめていく過程を目の当たりに見て、よい勉強ができたと感じた。

4月5日(木)

帰りの飛行機では、安堵感もあり、川上先生とも日本の新聞記事に関して少し、話をするこもでき楽しかった。ただ行きより気流の関係かのびた飛行時間の長さや窓を開けても何時間も氷の海が見える景色に地球の広さを思いながら、疲労感も感じた。ただ、日本の海岸線を見てからは心がはやり、疲れも吹っ飛んだ感じもした。

時計も13時間進ませ、日本時間に戻る。15:40 関空着。入国審査は以外と簡単であった。5時過ぎの関空発鳴門行きのリムジンバスに乗車。重いトランクを下げてだったが、家に8時過ぎに到着。2週間ぶりの自宅で子どもたちにみやげ物とみやげ話も少しづつ出しながら、帰宅した気分を味わった。

2週間という時間であったが、中身の濃いいろいろなことを体験した日々であった。この貴重な経験を今後にかかすことを考えていかななくてはと思う。